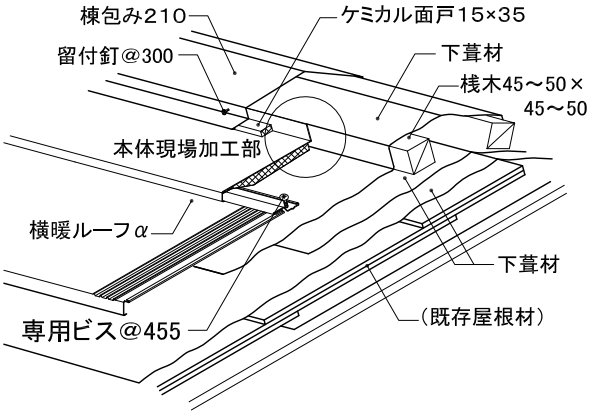
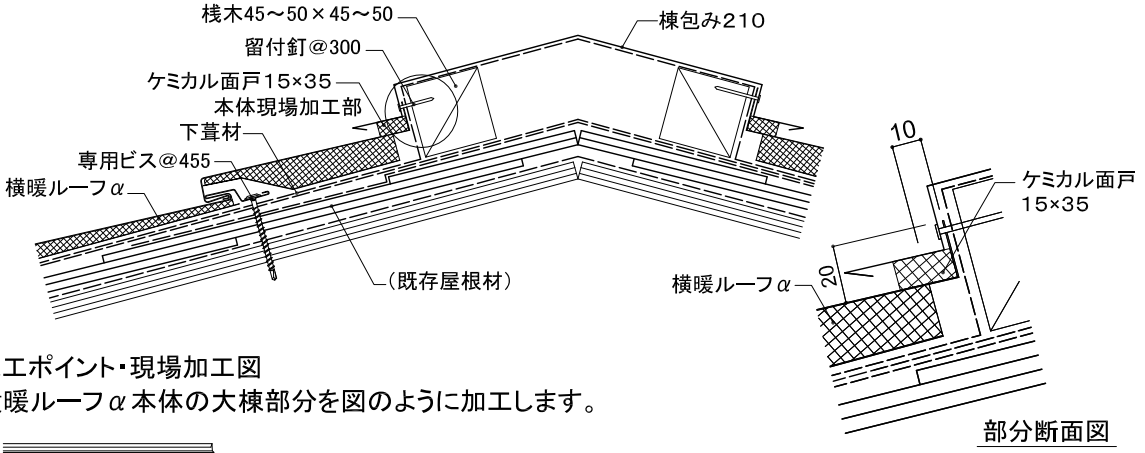
横暖ルーフα	工法	既存屋根材
	重ね葺き	セメント系新生瓦 アスファルトシングル

6）大棟部

①棟包み210

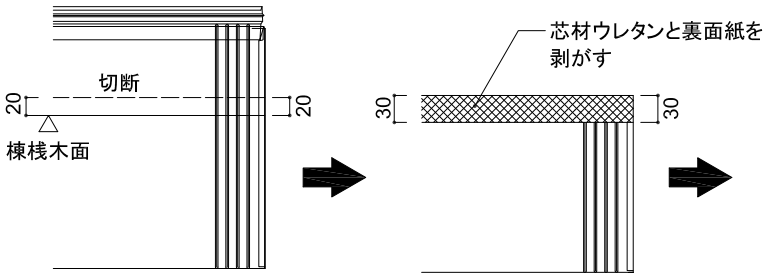
●既存屋根材に下葺材を張ります。
●棟部に桟木45～50㎜×45～50㎜を外側2ヶ所に取り付け、桟木を包むように下葺材を増し張りします。
※工事中は棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
●棟部は本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜以上）を用いて、300㎜以下の間隔で桟木に留め付けます。
●けらば部は棟巴210を使用して納めます。





部分断面図

■施工ポイント・現場加工図
●横暖ルーフα本体の大棟部分を図のように加工します。

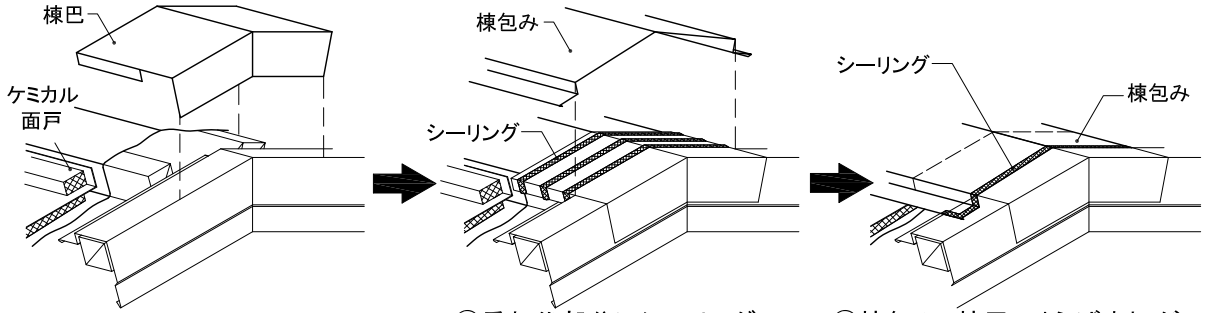


①棟桟木面から図の寸法で切断します。

②端部から30㎜の位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

③端部から20㎜の位置を折り曲げて立ち上げます。

■けらば納め：けらば包み60の例



①棟巴を屋根勾配に合わせてけらば包み60と桟木の上にかぶせます。

②重ね代部分にシーリングでビードを3本作り、棟包みをかぶせます。

③棟包み、棟巴、けらば水切が交る部分に捨てシーリングを施工します。